

かがわ医療福祉総合特区

[指定：平成23年12月、認定：平成24年3月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値 (4.8+4)/2=4.4

4.4

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	電子カルテ機能統合型テレビ会議システム「ドクターコム」等による遠隔医療の推進	105%	5
2	へき地薬局研修参加者数	100%	5
3	複合型サービス施設	80%	4
4	島しょ部における地域包括ケア病床の確保	150%	5

評価指標毎の進捗の評価の平均値 (5×3+4×1+3×0+2×0+1×0) / 4 = 4.8

4.8

・1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。
 (例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

4.0

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii) の平均値 (3.4+3.3+3.6)/3=3.4

3.4

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

3.4

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

3.3

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

3.6

Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

3.6

- ・全体として個々の取組について着実な進捗が伺える。地域包括ケア病床の開設や遠隔診療、へき地薬局研修など実績を積み重ねている点は一定程度評価できる。
- ・規模は大きくないが、人口減少社会の課題である遠隔僻地における医療システムのモデル構築の取組は極めて重要である。国の医療政策にも知見が活用されており、有意義な事業である。
- ・「ドクターコム」等の対象となる在宅患者の総数に対して、実績の患者数の割合を示すと、実態が明らかになり、成果の判断が容易になると期待される。
- ・「へき地薬局」の利用頻度や利便性についての詳細が求められる。
- ・個々の支援策が、どのような経路で総合的な目標である医師等の地域的な偏在の解消に結びつくのかについての戦略性を明らかにしておく必要がある。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

3.6

総合評価

I、II及びIIIを1:1:2の比率で計算 $(4.4+3.4+3.6 \times 2) \div 4 = 3.8$

3.8

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

- ・評価は5～1(評点)で行う。
- ・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。
- ・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。